

地域密着、
身近な話題を
体験取材！

まちかど

特派員だより

戸崎へ行く！

令和元年6月、戸崎公園がオープンしました。18ホールのパークゴルフ(有料)が楽しめる公園です。他にも子ども広場、1周600mのジョギングコース、多目的広場など、ご年配からお孫さんまで三世代で楽しめる場となっています。全てがピカピカの新しい公園ができていて、驚きました。

戸崎地区は市の南端にあるので、JR宮原駅、JR日進駅を利用する人がほとんどです。地域全体が市街化調整区域になっている、緑がとて豊かな地区です。地区の活性化のための「まちづくり協議会」の役員、長澤不二夫さんと秋山隆さんに話を伺いました。



ポピーの妖精



ポピー祭り



野菜の直売 戸崎の大根

「戸崎公園から花の丘農林公苑に向かう途中に浅間神社があり、今でも毎年7月の第1(日)に初山が厳かに行われています。また、戸崎の畑からは朝夕なみに富士山を見ることができ、関東の富士見百景に登録され、地域が富士山に見守られていることを誇りにも感じて暮らしています」

「5月には戸崎の信号交差点付近にて、同協議会が主催で休耕地を活用したポピー祭りを開催しています。600坪の土地には、5月中旬に花が咲くように10月半ばに種まきを行います。祭り当日は、ポピーの切り花を無料で配ったり、戸崎産の野菜を直売したりし

ます。JAさいたま女性部が「一から炊き上げる赤飯や田舎饅頭も人気です」と魅力を語ります。赤飯や田舎饅頭作りには南中学校の生徒がボランティアで参加し、世代間の良いコミュニケーションの場にもなっているそうです。また、隣の田園では、子ども会の皆さんが田植えに挑戦しているそうです。

コロナ禍で運動不足の皆さん、戸崎のウォーキングマップ「戸崎の四季を巡る」を片手に、戸崎に出掛けてみませんか。同ウォーキングマップは市ホームページでも見ることができます。

大谷地区
野原美智江さん



市民の情報交流スポット



アッピーNET掲載団体募集

アッピーNETは市民の皆さんの交流の場として、催しなどへの参加者募集「おいでください」と、各団体のサークル会員募集「いきいきサークル」を掲載しています。観客を増やしたい・会員数を増やしたい団体は気軽に申し込んでください。申し込み方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください。



おいでください

■小説サークル・開校 3月21日(日)13:00～16:00、文化センター 定員13人 費1,000円・大学生以下無料 当日 山口 090-7249-3155 (20:00まで) **ひと言!** 小説の書き方、自分史の書き方。

■第16回合唱コンサート～春は歌から～ 3月28日(日)13:30～16:00、文化センター 費400円 当日 鈴木 773-7343 **ひと言!** ホールに春を!令和2年3月1日のチケットでも入場可。

いきいきサークル

●上尾将棋同好会 毎週(土)13:00～17:00、上尾公民館 費月額750円 秋元 725-2297(16:00以降) **ひと言!** 頭脳活性化のため将棋を指そう! 初心者歓迎。





生後1週間の夏歩ちゃん(2月に2歳となり、活発な女の子に成長)

「娘をはじめて抱っこできたのは、生後2カ月の時でした」。そう話すのは、「小さく産まれた子どもと家族の会」一步の代表を務める川満ひとみさん。
 川満さんは、妊娠26週で87%の次女・夏歩ちゃんを出産しました。手のひらサイズの夏歩ちゃんは自力で呼吸できないため、保育器から離れられず、退院まで4カ月半を要しました。
 「生まれて間もない時期は、まず『生きる』ことが目標だった」と話す川満さん。その現実と向き合うことや、長女を育てながら病院へ通うなど精神的にも体力的にもつらい日々が続きます。
 そんな日々を和らげてくれたのが、家族やママ友、そしてSNSを通じて出会った同じように千々未満児を出産したママたちでした。「一緒に頑張ってるから励まされたことで、前向きになれました」と川満さんは話します。
 「子どものためにできる事は何でもしたかったけれど、とにかく情報が無く、自力で動くしかなかった」そんな経験か

スポットライト

～人・仲間～



かわみつ
川満ひとみさん
(西宮下在住)

一步一步小さいけれど着実に

小さい子どもと家族の大きな道しるべ

ら、当事者同士が早期からつながり、情報交換できる場所が必要だと考えるようになり、昨年1月に家族会を立ち上げます。その矢先に新型コロナウイルス感染症の流行により、オンラインでの交流会を余儀なくされますが、結果的に出産直後の人や、県外の人、さらには海外の同じ境遇で頑張っている人ともつながっていきます。
 交流会では、ある程度テーマを設けた上で、現在の近況や今不安に思っていることなどを自由に話し合っているそうです。その中で、暗い表情で参加したママが明るくなっていく姿などを見ると、「産後間もないタイミングから関われることは、ママが前向きに子どもと向き合うためにはすごく大切」と感じるそうです。
 今後の目標は「毎月の交流会を続けながら、小さい子どもの事を知ってもらうため発信を続けていくこと」と話し、同じ境遇のママたちには「一人で悩まず、医療や福祉、家族会を頼っていただき一緒に子育てしていけたら」とエールを送ります。
 一步一步着実に進み、輪を広げている「小さく産まれた子どもと家族の会」一步は、これから歩みの異なる小さい赤ちゃんや家族に寄り添って大きな道しるべとなってくれることでしょう。

当事者や家族会を応援してくれる人を募集しています。
 家族の会「一步」LINE →



読者の声

「クイズ アッピーを探そう！」(2ページ参照)で寄せられた『広報あげお』への感想・意見を紹介します。今月は2月号です。

⇒ 広報広聴課 ☎775-4918・☎776-8873 ※内容は一部要約しています。

表紙 鬼は外! 福は内! “全集中”で鬼退治

- 表紙の豆まきがよかった。(10代未満・男性)
- 表紙の鬼退治、子どもたちが微笑ましくて元気が出ます。(50代・女性)

豆まきは無病息災の祈願が込められているといわれています。新型コロナウイルスが早く終息してほしいですね。



市政ニュース「上尾の摘田・畑作用具」が国指定文化財に

- 市政ニュースの中の上尾市初「上尾の摘田・畑作用具」が国指定文化財にを興味深く拝読いたしました。(80代・女性)
- 広報で詳しく知ることができました。うれしいニュースですね。(60代・男性)

上尾市初の国重要有形民俗文化財に答申されました。3月中旬に正式に指定される予定ですので、続報をお待ちください。パネル展も開催します(23ページ参照)。



『広報あげお』は、読者の皆さんの感想を参考にし、より良い誌面作りを目指しています。これからも皆さんの感想をお寄せください。

